

# 太平洋に沈む旧日本軍の遺物

## 鎮魂の 写真集

市川市在住の写真家田中正文さん(47)が、第2次世界大戦で米軍に撃沈・撃墜された太平洋のパラオ沖海底に眠る旧日本軍の艦船や航空機の写真を収めた記録写真集「パラオ 海底の英霊たち」(並木書房刊)を出版した。パラオ本島に残る航空機や砲台の残骸などの未発表写真も網羅した、鎮魂の写真集となっている。

### 市川の田中さん出版

中心部の戦いの跡を特集。本島でたがった機、残っていると言われていた零式艦上戦闘機も生い茂る草の中から発見し、2号を削いで取り上げている。監視哨の壁に残る「父母ヲ／見タクテ／タマリマセン」との文字は、兵士の叫びを今に伝える。

第2～5章では、海に沈んだ航空機や艦船を取り上げ、「サクラ、サクラ」と題した第6章では、多くの兵士が玉砕したペリリュー島にレンズを向けている。「サクラ、サクラ」は隊長が白旗前、玉砕をパラオ集団司令部に伝えた電文だという。

田中さんは「日本人観光客でにぎわうパラオに、このような戦いの跡のあることを広く知ってもらいたい」と話している。写真集はA4判、148頁で3099円。

田中さんは2002年5月、パラオ共和国大統領の案内で同国沖合の海中にもぐり、目の前に次々と姿を見せる旧日本軍の艦船や航空機に衝撃を受けた。以来、「この海底の戦跡を次代に伝えたいと、特殊な潜水器具の使用ライセンスを取得するなどして、危険と背中合わせである海底での戦争遺物撮影に取り組んできた。パラオ沖には5年間で9回渡航し、総潜水時間は260時間、撮影カット数は陸上のもも含め、2万8000に上ったという。

昨年6月には、地元市川市の市民談話室で写真展「61年目のパラオ沖海底の英霊たち」を開き、1944年3月の「パラオ大空襲」



出版した記録写真集を示す田中正文さん